

令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	アプリを用いてコロナ禍における学生の健康観察の継続をサポート
研究者所属・氏名	研究代表者：メディカルサポートセンター 共同研究者： 藤本 美香

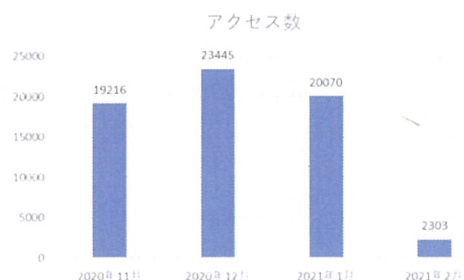
1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

新型コロナウイルス感染症が拡大しているなか、学生自身が毎日の健康観察を行う習慣をつけるため、「健康日記」アプリを用いて体温や健康状態を入力する。今後は、学生へのヘルスリテラシーの向上と「対応力」を身に着けることにつながり、2021年11月から2021年2月まで、継続して健康観察を行い入力できた学生に達成の証として、Quoカード3千円分と、4か月達成者には表彰状を進呈する。

2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

「健康日記」アプリは、体温の入力とともに、「咳」「息苦しさ」「鼻水」「のどの痛み」「体のだるさ」「下痢」「頭痛」「その他の症状」の有無、「解熱剤・咳止め・かぜ薬等の服用」「検査実施」を入力できる。他にも体重や血糖、血圧も入力可能である。

期間中(2020年11月から2021年2月末まで)のアプリからの入力アクセス数はトータル65,035件であった。2月は入力件数が著明に減少しており、卒業や帰省などのイベントの影響が考えられた。



観察期間中、ひと月毎に30日間入力継続できた学生のうちから毎月8名抽選し、東大阪キャンパス西門の写真をデザインしたQuoカード3千円分を進呈した。2月末日までに入力した学生のなかで19名が4か月間休まずに毎日入力し続けた。11月から2月末日までの継続入力日数の上位50名に同様のQuoカード3千円分と、長期継続達成の証として以下の表彰状を授与した。



賞状授与

表彰状

進呈したQuoカード

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

COVID-19 は学生の健康観察を促す機会となった。今後も大学生の時期から「健康」を身近に捉えて、確かな健康教育を行っていく重要性が考えられた。

近畿大学は、医学部、薬学部、農学部、理工学部、建築学部、生物理工学部などの医療系の問題を扱う理系学部と、法学部、経済学部、文芸学部、総合社会学部とヒトの人生のなかでの健康を扱う文系学部を有する総合大学であり、学生にとって心身をトータルで考える健康教育を大学内で行っていきたいと考えている。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
メディカルサポートセンター 年次活動報告書(令和2年度)	雑誌	2022年発行予定

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

今回は、提案課題として行ったプロジェクトである。今回、メディカルサポートセンターが行った全3件を合わせて「”オール近大”新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト」の紹介として、2021年または2022年開催の全国大学保健管理研究集会にて口頭発表を考えている。